

福岡空港の総合的な調査に係る PI（ステップ3）にかかる意見

石田 東生委員長殿

本日は、私の業務の都合により委員会に出席できないことを深くお詫び申し上げます。実施報告書案を事前に拝見し、いくつかの広報周知活動の状況を拝見した結果を踏まえ、PI ステップ3の実施結果について意見・感想を申し上げます。

評価案作成のご参考にしていただければ幸いと存じます。

1) PI 活動が実施計画の基本方針に則った適切なものであったか

十分な周知広報の実施、多様で適切な PI 手法の選定、わかりやすい情報の提供、収集した意見とそれに対する考え方を公表、中立・公正な PI の実施、適切な時間管理という評価項目について検討しました。

全体としておおむね、良好であると判断しますが、今後の留意点をあげれば次のとおりであります。

アンケートは2600人を超える人から回収できたとのことで、前回よりも上回っている回収状況から、広報周知活動が徹底して来ていることが窺われます。しかし、九州全体の空港利用者、ちらしの配布件数、雑誌の部数からするとまだ少ないことは否めませんので、次のステップでは、アンケートについてはさらに回収しやすい方法の検討が望まれます。

多様で適切な PI 手法については、事務局の方の工夫により、色々な広報周知活動が準備され、説明会等の参加者も結構多く良かったと思われれます。

ただ、事務局の方々も既にご認識のとおり、雑誌の認知度が極めて低かったので、雑誌を媒体とするときに方法、種類について検討される必要があると思われれます。

オープンハウスでは、一般を対象にした認知度を上げることに効果があり、懇談会等では直接的な利害関係を持つ人に対する認知度を上げることに役立ったと思われれますので、今後ともターゲットを明確にして、広報周知をおこなうと効果的であると思われれます。

わかりやすさといった面では、内容が専門的なこともあり一般的には、説明を受けないと分かりにくい面もあると思われれます。また、全ての内容を網羅すると字も小さく、全容がつかみにくくなります。例えば新聞記事等のような概要でも周知

には役立ちますので、より一般の人も意識しながらレポートの概要版をつくる
ことが望まれます。

「集約した意見に対する考え方」がまとめられてはいますが、今後これらをど
のように広報活動をしていくかが重要と思います。

広報が十分でないときには、アンケートの回答者、説明会で意見を述べた人が
意見について反応がないと思う可能性があります。

2) 当初の目標が達成されたか

目標をどの程度においていたかということがありますが、マスコミにも取り
上げられ、空港の拡張、新設について議論がされていますので、市民等にはだ
いぶ浸透してきているのではないのでしょうか。

巨額な投資が行われる以上、市民、国民が適切に判断できるようにさらに議論
をする場を提供し、意見の収集を図っていかれることを希望しています。

平成 20 年 1 月 18 日

委員 藤田和子